

22 世紀八幡ルネッサンス運動 (略称: 八幡ルネ) 企画作業チームニュース

# ひ る ば

■発行: 22 世紀八幡ルネッサンス運動  
企画作業チーム ひろば編集部

■事務所: 八幡市八幡高畑 10-76  
TEL/FAX075-981-6505  
090-3710-4842

■橋本連絡所: 八幡市橋本興正 7-4 075-971-9488

■男山連絡所: 八幡市男山指月 1-12 080-3780-6140

■八幡連絡所: 八幡市八幡土井 135 竹島文化 2F13 号  
080-3775-8133

■振込口座: 京都中央信用金庫八幡支店  
普通 5243582  
22 世紀八幡ルネッサンス運動

## 目的

八幡市民の幸福の増進のために活動する。古い歴史を有する八幡の秀でた伝統を継承し、八幡市民の総意と英知を結集して活動する。町の隅々にわたり高い関心を払い、たくましい意志と情熱を貫いた粘り強い行動で、光とうるおいある生活と文化を享受するように努める。

## コミュニティバス運賃について

中村たかし

八幡市は公共交通網を再編し、令和 8 年 10 月から新たな運行を開始する予定です。西ルートと東ルートに区分し、停留所も増設されます。さらに下奈良、二階堂地域をカバーする東部地域乗合タクシーが拡充されます。そしてイズミヤが市のモビリティハブに位置付けられています。

運賃は大人 250 円、小児 130 円、1 日乗車券なら (大人・小児共) 400 円で従来と同額。利用者としてはもっと安く乗りたいところですが、これまで行政が助成金で公共交通事業を支えてきたものの、これ以上の財政的な余力がありません。

市の財政負担を増やさず、運賃を限りなく低価格、例えば 100 円にすることができないのか。

再編を契機として、利用者負担の軽減、自家用車から公共交通への転換 (モーションフト)、高齢者の移動確保、地域経済の活性化をどのように実現していくのか大切な課題です。

その中で、他市で運行している『100 円バス』という考え方もあり、その可能性について整理してみましよう。

### ■単純値下げ型

全利用者を一律 100 円とする方式。わかりやすい反面、利用者増が限定的であれば減収が固定化する。

### ■条件付き 100 円型

例として、平日昼間のみ、高齢者限

定、特定区間限定、回数券方式 (実質 100 円) など、段階的・限定的に導入する考え方もある。財政影響を抑えつつ効果検証が可能。

### ■実質 100 円型 | 収入構造転換型

運賃を形式上維持しつつ、商業施設連携割引、レシート提示割引、協賛金、広告収入、ネーミングライツ等を組み合わせ、利用者負担を実質的に軽減する。交通を単独事業として捉えるのではなく、地域経済や市民サービス事業と連動させられないか。市の健康事業である「いきいき健康プロジェクト」と融合させ、予算やポイントとのリンクが考えられないか。

### ■社会実験型

期間限定で 100 円化を実施し、利用者増加率、自家用車からの転換率、商業施設売上変化等を検証したうえで判断する方法も考えられる。低価格化、100 円化の目的は単なる値下げではなく、移動の確保、生活圏の拡大、商業・医療アクセス向上、脱炭素への貢献であり、「使われる公共交通をどう設計するか」が本質となる。

現段階では、全線一律 100 円を直ちに実行できないとしても、条件付き・段階的な導入可能性を整理し、財政影響と利用増効果を試算することが現実的かと思われま。100 円化は難しい、あるいは容易だと結論づけるのではなく、どの程度なら可能か、どんな条件なら持続可能かを試行錯誤することも必要ではないでしょうか。

公共交通は「コスト」ではなく、地域を支える基盤です。再編という大きな節目において、運賃の在り方も含め

た多角的な検討を行うことは、将来世代に対する責任でもあります。地域公共交通会議の議論を行政がしっかりとリ・グリップして、市民を主体とした、市民にメリットのある再編の実現が望まれます。



※コミュニティバス  
八幡市ホームページより

フロム・ロード&ストリート  
VOL. 55 2026. 2. 26  
だいたいでも、様になるものは意外に多い

大谷川から放生川と名を変えるあたり、上流から山路橋、買屋橋、八幡橋と架かる川沿いは枯葉で溢れている。石清水八幡宮に近い側は枯葉がいつぱいの花壇が並んでいるのが目立つ程度だ。しかし反対側となると、路面のいたるところポウポウと枯葉が広がり、なんとかしたいと思う気持ちが生まれる。

ベンチ、ランタン、花壇と、取りそろえた配置を見れば、適度に手入れを

してもおかしくはない。設置を代行した人びとも、ちょっと考えてみてよ、と思っているかもしれない。そこを通る人びとだって、なんとかしてほしいという気持ちが湧いても自然な気がする。

気持ちがあっても、動くにはそれなりにエネルギーがいる。初めは少しやってみるか動かし、2、3 回数を重ねていくうちに気持ちが入っていった。出来心だ、と動いた人は言っている。花壇の枯葉が片付けられた 2、3 日あとに、誰かが花壇に花を植えて、びっくり感動したと言っている。

男山中学校の正門から八幡中央病院に抜ける川沿いの小道は、笹や草に覆われて通りにくくなっていた。八幡ルネの仲間は、小笹や雑草を切らせてせと土のうに詰めた。みんな思い思いに植木バサミや鎌を使った。初めて参加する女性の方もいた。合計 5、6 回の活動で小道は切り拓かれた。

切り方は様々である。求められれば答えはするものの、本人任せが軸になっている。その結果を反映して根の切り揃えはバラバラで、見た目には美しくは見えない。

休憩時、刈った雑草の上に土のうを敷いたり、詰めた雑草で膨らんだ土のうに座ったり、差し入れの野菜ジュースを飲むのは悪くない。新しい仲間の紹介も行われる。

刈り取った小道の出来具合が気になって、何日かあとにその現場を覗いてみると、ちゃんと通れる普通的小道になっていることに気付いて安心する。細かく考えることは必要だけれど、だいたいでも様になっていることは意外に多い。

大谷川清掃レポート  
2026・2・28

イチゴ

イチゴ(苺)は、バラ科の多年草です。

現在、私たちが食べているイチゴは、北米産のバージニアイチゴとチリ産のチリイチゴの交雑によって作られたものです。「オランダイチゴ」と呼ばれ、18世紀にオランダの農園で作られました。

日本には、オランダ人により江戸時代にもたらされました。

現在、イチゴの旬は1月とされていますが、数十年前は春でした。1月15日は「イチゴの日」と言われ、イチゴの出荷がピークとなるようです。旬の時期が変化した裏には、栽培方法の変化があるはずで

イチゴは寒くなって日が短くなると、極端に成長しなくなります。ビニールハウスで栽培するわけですが、その温度を上げます。温度だけでは成長は良くなりません。成長は、昼と夜の長さに影響されます。昼が



長く夜が短い環境を作り出すことで春を感じ、花を咲かせ実をつけるようになります。電気の光により「昼」を長くします。「電照栽培」と呼ばれます。

イチゴは、タネの数が多いほど大きくなる果物です。それは、タネが果実を大きくする働きがあるということです。植物はタネをつくることで子孫を残したり、生育場所を変えたりと様々な働きがあります。その中で意外な役割が、果実を大きくする働きです。

「果実のタネは実の中にある」のが、植物の決まりです。イチゴの周りの黒い粒々がタネと言われていますが、正確には粒々は「瘦果(そうか)」といってタネは、この「瘦せた実の中」にあります。私たちが食べている部分は「花托(かたく)」と云います。

こんな実験があります。イチゴの花が咲き、小さなイチゴの食用部が肥大をはじめると、粒々を取り去ってしまうと、イチゴの食用部は肥大しません。粒々の中にあるタネから肥大させる物質が送り出されています。この物質はオーキシンと呼ばれます。

イチゴの縦半分にした断面を観察すると、タネの部分から中央に向かって筋が見えます。これが、オーキシンが移動する道筋です。

オーキシンは、植物ホルモンで植物の成長促進、細胞分裂の促進や発根作用に関わっています。イチゴの粒々を取り去っても、オーキシンを小さいイチゴに与えると、食用部は肥大します。トマトやナスに与えると、タネが

できなくても実が大きくなるそうです。このようにして、大きくなったトマトやナスは「タネなし」になります。

◆2月1日、第119回舞台・盛戸大谷川清掃は4名の参加で、土嚢袋換算で44袋回収しました。

◆2月22日、第203回山路大谷川清掃は4名の参加で、土嚢袋換算で87袋回収しました。

【第204回山路大谷川の清掃のご案内】

■日時: 2026年3月22日(日) 午前8時半~11時(雨天中止) 集合: 旧あずま屋 (コノミヤ裏八幡源氏垣外)

※会場設営にご協力いただけの方は、集合時刻の30分~1時間前に現地にお集りください。 ※用意して頂く物: 厚手の手袋。その他の必要な物は用意します。

【第121回舞台・盛戸大谷川の清掃のご案内】

■日時: 2026年4月5日(日) 午前8時半~11時(雨天中止) 集合: 大谷橋下流の休憩所 (ベンチあり)

※会場設営・用意して頂く物は右と同様です。

《主催》NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会

連絡先: 八幡市八幡高畑10-76 TEL 075(981)6505 携帯090-3710-4842

木津川流域クリーン作戦

2月15日、「第8回木津川流域クリーン作戦」を行いました。22世紀八幡ルネッサンス運動も参加する「木津川流域クリーン大作戦実行委員会」が主催する活動です。

木津川流域の13カ所以上の河川敷や堤防で行われました。参加者510名、49団体、集めたごみは45ℓの袋240袋、粗大ごみなどです。

私たちは、流れ橋左岸で、参加者18名、2団体、44袋、自転車などの粗大ごみを回収しました。

参加者から寄せられた感想の一例は、「一見するとなにも無いように見えるが、草むらや木々の間には沢山のゴミが散らばっていた」「大雨の時には、ゴミが流されてしまい海まで行ってしまふと思うと、少しでも多くのゴミを回収したい」など、実感できるものばかりでした。

この活動は、3つの実現を目的として活動しています。

- 1. 河川美化・・・清掃活動による河川美化を通して、郷土の川として誇れる「きれいな木津川」の実現。
- 2. マナーの向上・・・活動を通じて美化意識を高め、マナーの向上を図る。ゴミを捨てない、捨てさせない。
- 3. 環境保全・・・川は人間だけのものではありません。水辺の環境保全を考える。

趣旨に賛同される方の来年度の参加を希望します。

白人と非白人

大益牧雄

ずっと不思議に思っていることがあります。

イスラエルという国ができる前、パレスチナではユダヤ人とパレスチナ人が隣同士で仲良く暮らしていたといえます。ユダヤ人を迫害したのは、ヨーロッパ、ロシア、アメリカの白人達です。そして、ナチスのホロコーストの後、イスラエルとパレスチナの建国をしてやるというイギリスの二枚舌で、結果的にはアメリカ、ヨーロッパはイスラエルの建国だけを応援し、実現させました。

欧米はホロコーストを起こしてしまつた反省としてイスラエルを支援したといえます。しかし、現在の欧米のイスラエルのガザ爆撃を支持している姿は、私には非白人を絶滅させたいのではないかと映ります。イギリスの首相にアジアの血が入っているようですが、アメリカ大統領の候補者に黒人の血が入っているように、イスラエルのガザ攻撃を支持する姿は、あることを思い起こさせます。

1980年代、南アフリカのapartheid(人種隔離政策)を日本は経済のため支援し、日本人は名誉白人と呼ばれていたことを、自身が非白人でありながら白人が非白人を殺戮することを支持する。まったく名誉白人の姿ではないでしょうか。

ウクライナの難民は受け入れられるが、アフリカの難民は受け入れられないというのは、白人と非白人の違いではないでしょうか。